

第4回タウンミーティング（思春期）会議録

日時：R6.12.14(土) 10:00～11:45

司会)

皆さんこんにちは。本日は令和6年度第4回前橋タウンミーティングにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。私は本日司会を務めます、青柳と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。まず初めに開会にあたりまして、小川市長からご挨拶申し上げます。お願いいたします。

市長)

皆さんこんにちは。第4回のタウンミーティングにお集まりいただきましてありがとうございます。12月ちょっと忙しい時期なので、どのくらい来ていただけるかなと思ったんですけども、本当に多くの皆さんに関心を寄せていただいて大変嬉しく思っています。

今年度、市民の皆さんの意見を聞きたいということと合わせて、前橋市が抱えている、いろんな課題だとかテーマについて、みんなで考える時間を作りたいということで、このタウンミーティングを開催しています。毎回、やり方とかテーマを変えておりまして、今日は子供の主体性ということで、前回も子供のテーマだったのですが、深いお話がみんなで共有できたらいいなという風に思っています。

毎回、ワークショップ型でやってみたり、前はパネルディスカッションみたいな形でやったのですが、今日は講師に西島先生をお迎えして学校の現場で感じていることなどもふまえながら、子供たちの今の状況っていうのを知りながら、また後半は皆さんの意見も聞きながら、これからは前橋の教育だとか子育てをどういう風にしていこうかという話ができたら嬉しいという風に思っています。

こういう場をたくさん作っていけると市民の皆さんと一緒に街づくりが進められるという風に感じております。今年私もまだ就任して、やっと10ヶ月ぐらいですけれども、引き続きこういう場が来年度以降も作っていただけたらいいと思いますので、終わった後のアンケートでも皆さんの色んな意見を聞かせていただけたらと思います。今日はよろしくお願いいたします。

司会)

続いて小川市長から、前橋市の子供政策について報告をしていただきます。よろしくお願いいたします。

市長)

はい、最初にですね、少しだけ私の方から今の前橋の子供政策に関する現状と、こういうことを取り組んでいますよ、ということをお話しさせて頂きたいと思います。

「こどものまち前橋」ということで、子ども子育て・教育が最優先で、前橋市の中でも取り組んでいます。なぜかと言いますと、これはもう皆さん、誰もが聞いてわかっていることなんですけれども、本当に今、全国、日本中、前橋でも子供の数が減っていると、これは人口の減少なので、子供だけに限らず前橋市全体ですね。0歳から100歳を過ぎる方まで入れた人口もだんだん減ってきますということなんですけれども、さらに子供たちに関して見てみると下からですね、0歳から4歳、5歳から9歳、10歳から14歳、15歳から19歳っていうグラフになってるんですけど、年々子供の数自体が減ってるという風になっています。

この減り幅がだんだん大きくなってきているので、ここで今一度、本当に子供たちのために行政が何ができるのか、あるいは子供たちを育てやすい環境とか、子供を産みたいと思えるような社会をどうやって作っていいのかというのが、今大きなテーマになっているという風に思っています。

前橋ですけれども、今は人口の減少というグラフを見ていただいたのですが、自然減と社会減という風に言われるものがありまして、社会減ですね、前橋にいた人が外に出て行ってしまっ、減るという部分もありまして、前橋の場合には首都圏へ出ていく若者が非常に多いと、これは大学の進学とか就職の時に出ていく人が多いという傾向がありますが、それ以外にも県内で見ても高崎とか伊勢崎とか吉岡町とか、お隣の市町に若い人たちが出て行っているなという、傾向が少しずつ増えてきているなというのを感じるところもございます。

特に、直近の状況を見てみると、15歳から29歳の高校進学とか大学進学とか社会人になって企業に勤めて出ていくっていう世代だけじゃなくて、0歳から9歳までの子供ですよね。就学前とか小学校入りたての子供たちも市外に出ていく人が増えてきているというのが分かりました。

今までは入ってくる人と出る人を差し引きしても、この0歳から9歳のところはまだ前橋に入ってきてる人がちょっとだけプラスになっていたんですけど、2023年の数字を見ると80人以上ですね。0歳から9歳までが出てしまっているということは非常に、数字としては大きいと思っております、子育て世代が転出している理由は何なのかとか。あるいは子育て世代が前橋に残ってもらうとか、前橋にまた来てもらうっていうためにどうしたらいいかというのを今市役所の中でもですね、一生懸命考えているところになります。

子ども子育て政策はそれぞれの自治体でちょっとだけ差がありまして、近隣で言えば、渋川市は、給食費も保育料も完全に無償という風になっておりまして、そういうところを見るとやっぱり子供を育ててる世帯はお金がかからない自治体に引っ越そうかなとか、家を作るならこのタイミングで吉岡に行こうかな、渋川に行こうかなという風に選択をする方もいるんじゃないかなというのは正直感じているところなので、前橋市もまずは経済的な負担がどれだけ減らせるのかということも、皆さんの意見を聞きながら進めていきたいなと思っています。今年度は、中学校の給食費を無償化にさせていただいたんですけども、さらにですね、どこまで子供たちのために奉仕が出来るのかというのを頑張っていきたいなと思っています。

そしてですね、子供の数は減っている中で、少子化の中で増えている数字というのもありまして、児童虐待の相談件数も増えています。不登校も毎年増えています。子供の貧困は対策をして、今10人に1人ぐらいという風に言われていて、一時期、子供の貧困が一番問題

にされた時、国がまだ対策を取る前は6人に1人というところまであったんですけども、だんだんそれはいろんな支援を充実させてきて、今10人に1人と言われています。

それでも10人に1人やっばり経済的に困っている家庭があるということになりますし、ヤングケアラーというのは最近聞くようになりましてけれども、家でいろんな家事に携わっている、主としてやっている子供たちもある程度いるという風に言われています。こういったいろんな課題があるので、何か1つをやれば、それで全てが解決するというわけではないんですけども、いろんな子供たちの状況をまずは知って、地域に何ができるのか、家庭でというのもあるんですけども、私は子育てを家庭だけの責任にするのは、それってやっぱり生きづらい、子どもを育てにくい社会だなと思っているので、家庭だけの責任にしないで、学校だけに任せない。地域でも、会社でも、みんなができることをちょっとずつ考えていきたいという風に思っています。

そういう考えの元にですね、やっぱりこども子育て政策が今一番大事なんだということで、こども子育て最優先ということで、色々な取り組みを進めさせていただいています。子供たちのことはですね、全ての市民に関わります。子供が元気に育って、力を発揮していただけ、そういう若者に成長していただくことで、それぞれ会社の企業の皆さんも将来、会社で働いてくれる若者を確保できますし、若い人たちがいっぱい稼いでもらって、しっかり働いてもらわないとおじいちゃん、おばあちゃんの社会保障というのでも成り立ちません。

結構ここが今私もいろんなところで話をしていて、なかなか共通認識にできてないなと思うんですけども、子供のことに色々力入れたいよと言うと、どうしても高齢者のことは後回しになっちゃうのとか、俺たちのこともしっかりやってねという風に、目上の方に言われることがあります。もちろん高齢者の福祉とかいろんな政策も前橋やっているんですけども、そのためにもですね、そこを充実させるためにも、子供や若者に投資するっていうことが、みんなのために必要なんだというところを、まずは共通認識にしていきたいなと考えています。

で、先ほども言いましたが、いろんな子供たちを取り巻く環境がありますけれども、やっぱりこども子育て施策って、いろんなことに繋がっていると思います。子供たちの通学路の安全というのは、例えば誰が通っても安心できる道路に繋がりますし、いじめの問題というのも社会に出てからもハラスメントだとか問題がありますけれども、その多様性を認められ

る社会につながってくる大きなテーマだという風に思っています。当然、子育てしてる方々が仕事と子育てがしやすい環境を作っていくというのは働きやすい、誰にとっても住みやすい社会につながるという風に思っています。

こういった子供を中心にした政策を進めておりまして、もう1つですね、子供たちの権利だとか意見を尊重するための条例も作りたいということで、今前橋では準備を進めています。子供の権利に関する条例を作ろうと思ってるんですけど、子供の権利って聞いたことある人いますか？ありがとうございます。実はですね、子供の権利に関しては、世界の人権宣言でも採択されていて、1989年には子供の権利条約というのが、国連ではできています。

ただ、日本では、なかなかこの子供の権利条約、批准して30年経つんですけども、今まで子供の権利っていうのがあまり語られてこなかったんですね。親が育てやすいとか、大人から見た子育てはこうあるべきだという話は今までもあったんですけども、子供自身の考えがどうなのかとか、子供の立場で本当に世の中の制度ができているのか、というのを考えてくるというのがあまりなくてですね。やっと2022年に子供基本法という国の法律が出来ました。この法律では子供たちの意思の表明ですね。子供たちが何を考えているのかというのを大事にしていこうという風に掲げられています。

先ほど皆さんに手を上げていただきましたけれども、日本はもともと子供の権利というところの感覚が今までなかったので、多くの人がまだ子供の権利について内容を知らないという状況になっています。今、語られている国連で条約の中に含まれている権利というのは、生きる権利だとか育つ権利だとか、守られる権利、参加する権利という風に大きく分けると4つに分類されているんですが、特にこの参加する権利ですね。子供の意思表示っていうのをしっかり大事にしていきたいなと思っているところでございます。こういった条例もですね。今年と来年にかけて作っていくので、また注目してもらいたいと思っています。

子どもたち、若者の声をたくさん聞いて意見表明する機会というのを、条例を作ってから実施するのではなくて、条例を作る段階でも子どもたちから意見をしっかり聞こうという風にしておりまして、いろんな場で子どもの声を聞くようにしています。タウンミーティングでも子どもを対象にしたものをやっていますし、シンポジウムでも若者の意見を聞くようにしています。

例えばなんですけども、今こどものまち前橋若者会議という組織を立ち上げていまして、大学生に実際に色々と意見を聞いて、どうやったら若い人たちが意見表明しやすくなるかだとか、そういった取り組みをしていただいています。

7月に、当時のこども家庭庁の大臣、加藤大臣をお招きして、子どもの権利に関するシンポジウムを開催しました。その時にも大学生にパネリストとして参加してもらって、若者の立場でどういう風に社会を見ているのか、どういうことに期待をしているのかというのをお話いただきました。

また、小中学生に集まってもらって、子どもの権利というのを考えるワークショップを開催しています。子どもたちの意見を聞くと、日頃当たり前に朝起きて、ご飯を食べて学校に行って友達と遊んでという生活をしているのを、「権利」という視点で見つめ直してもらって、ちゃんとご飯が食べられるというのも生きる権利に繋がるんだな、とか育つ権利に繋がるんだなとか、学校に行くのも義務で行ってるんじゃないくて、自分たちが学ぶ権利を保証してもらってるんだなということで、非常に、いろんな気づきがあったという感想を頂きました。質問の中で、ご飯を食べるのは生きる権利だと思うんだけど、おやつを貰う権利はあるんですかという質問も出まして、こういったことを皆さんにも考えてみて頂けたらなと思います。

高校生のワークショップもやっていて、自分たちが大人になるにつれてどんな権利が必要だとか、高校生の立場で改めて考えてもらいました。高校生ぐらいになると、考えが大人と一緒にだなと思います。むしろ、もっと自分たちの意見を聞いてもらいたいとか、一人の存在として認めてもらいたいとか、今日も思春期のお話出ますけれども、大人と子どもの境目というところで、すごく想いが強いなというのを感じたところです。一人の人間として扱ってもらいたいというのが非常に強いので、そういったところもですね、これからの市の政策について、子どもたちの生の声というのを活かしていきたいと思っています。こちらの、高校生を対象にしたタウンミーティングでも同じような意見が出ています。

こういったお話を聞く機会だとか、皆さんに、子どもたちもそうですけど、市民の皆さんに参加をしていただいて、条例だとか、子ども計画というのを作っていききたいと思いますので、また、今日もこの後一緒に学んで、質疑応答もありますけれども、皆さんから出た意見をこういった前橋市の政策にしっかり活かしていきたいなと思っています。

今の前橋市の状況についての説明は以上とさせていただきます。ご静聴ありがとうございます。

司会)

ありがとうございます。続きまして、専門家の方からご講演をいただきたいと思います。講演をいただきますのは、養護教員として小学校や中学校で長年勤務をされて来られた西島美保さんです。西島さんは現役時代に課題を抱える児童・生徒と向き合ってこられました。その経験を基にコーチング的な内容のセミナーを開催しておられます。本日も有意義なお話をお伺いできることと思います。それでは西島先生、よろしくお願いします。

講師 西島さん)

皆さんこんにちは。西島美保と言います。本日はご参加いただきありがとうございます。市長さんのように原稿無くお話ができないので時間を読むために原稿を作ってみました。今まで原稿を作って皆さんとお話する機会はなかったのでうまく進むかどうか、とても心配です。拙いお話ですがどうぞお付き合いください。

ご紹介頂いたように、私は40年間養護教諭として、小中学校に勤務してきました。40年前は昭和ですから、今とは社会の景色が違いました。元々前橋市の出身ですので、3校目から前橋で勤務させていただき、それからは前橋市内で働いています。ちょうど私が前橋に赴任した年に国の政策で、カウンセラーを学校に配置しようという動きが実際にありました。群馬県にお試しで3人だけカウンセラーが配置されることになり私が赴任した学校に1名の方が勤務することになりました。そんな学校に私は赴任しました。しかしカウンセラーが勤務するのは月に1回で、3階にある相談室にいます。保健室は1階で、1日中誰かしの生徒が居りましたから、なかなかカウンセラーの方とうまく連携を取ることが最初は難しかったです。

今でも忘れられない生徒もいますし、今でも関わっている生徒もいます。もっともっと私

が色々な知識を持ったり、色々なことを知っていたら、生徒はもっと違った道を歩けたのではないかなと力の無さを反省することは今でもあります。その頃から自分でも学ばないと、と強く思うようになりました。そしてある時から、校内で PTA セミナーを開かせてもらい、学んだことを活かして、保護者の方々と一緒に話が出来る機会を作るようになりました。それは保健室で仕事をしている養護教諭という役割を広く知ってもらうことでもあり、学校と保護者が繋がれる場でもあると考えたからです。

保護者の方も、小学校のうちは学校に足を運ぶ機会もたくさんあるでしょうが、中学校になると、年に 1 回の授業参観や PTA 総会以外にはほとんど来ることが無くなります。いざ相談したいことが起こったとしても誰に相談したらいいかわからなかったり、学校に電話を入れるにも誰が出るかわからない、ドキドキしてかけづらい。そんな話はよく聞いていました。そんな時に養護教諭が窓口になっていたら、相談しやすいかもしれないなという風に考えたのも、セミナーを開いた 1 つのきっかけです。ただ残念ながら、大規模校に勤務することが多く、最後の学校ではセミナーを開催する時間を持つ余裕がありませんでした。

実際、養護教諭の仕事はあまり皆さんご存じないかもしれませんが、その 8 割は事務仕事です。残りの 2 割の時間で子供たちと接したり、健康診断を行ったりしています。日中、生徒が誰も来なくても、事務仕事だけに集中したとしても、勤務時間内に仕事を終えることはとても難しいです。小さな学校であればギリギリ終わるかもしれませんが。ぜひ、大規模校には半日でいいので、もう 1 人養護教諭の代わりになる先生を置いていただけたらいいな、と。こんな期待を持って、皆さんに知っていただきたいことではあります。

では、本題に入りましょう。私がセミナーでお伝えしてきたテーマと同じ思春期の子供の関わり方です。日頃保健室で関わっている子供たちの様子から、毎日いろんな内容をお話ししてきました。私は既に退職していますので、これまであまり語れなかったことも伝えられたらいいなと考えています。少し突っ込んだお話をするかもしれません。その中から皆さんが何か持ち帰ってくれるものが 1 つでも見つかったらありがたい、そんな気持ちでこの仕事を引き受けました。

思春期という言葉はよく聞くことですが、思春期の始まりっていつ頃からでしょうか？いくつかに分けて聞いてみたいと思います。ここに書いてある、小学校の低学年、中学年、高学年、中学生、高校生、高校卒業後、先ほどの市長さんの話にもあったので、なんとなくイ

メージがつくと思いますけど、この頃からかな？自分の経験や、いろんな社会の状況の中で、この頃から思春期って言われるんじゃないかな？ちょっと予想をつけて手をあげてみてください。

(小学校中学年・小学校高学年・中学生で手を挙げる人が多かった)

ほとんどの方が小学校の中学年から高学年、中学生ぐらいという風に考えているようです。国によっても捉え方が大分違いますが、アメリカなどは思春期はティーン・エイジを思春期と捉えているので、13歳から19歳ぐらいを思春期という風に捉えているようです。実際、思春期はここに書いてあるように、小学校高学年の頃から始まる第二性徴の出現などの児童期から成人期へと移行する、中間の期間という風に調べれば出てきます。成人発達分類学的にはエリクソンが提唱している人の成長発達を4つの段階に分類した中の青年期という時期とほぼ同じ意味で使っていて、特に思春期という場合には性的成熟に焦点が合わされた呼び方になってるということです。

資料に書いてあるように、「性的成熟に伴い、感受性や気分の高揚。それまで未分化に結びついてた、環境からの分化・独立に起因する、不安・動揺が見られ、これらは第二反抗期と呼ばれる」となっています。つまり体が大きくなるだけでなく、性的成熟、つまり第二性徴が起きている時期であるということを、いつも頭の中に入れていて欲しいと思います。分かっているつもりでも、意外とここが忘れられがちです。子どもたちはもう子どもを作れる体になるということなんです。男子も女子も、そのどちらに着地していいかわからない心模様で混乱しているジェンダーの子たちもです。ですので、思春期は日本では小学校の高学年頃から22歳頃までを指していると一般的には言われています。

参加されている皆さんのご家庭の様子を聞いてもいいでしょうか？実際、今言ったような年頃のお子さんがご家庭にいらっしゃる方、手を上げて教えてもらえますか？はい、ありがとうございます。では、お仕事やその他の関係で今言ったような年齢のお子さんと日頃関わっているという方、いらっしゃいますか？はい、ありがとうございます。皆さん何らかの関係をお持ちなので、この思春期の子供との関わり方っていうテーマにちょっとアンテナが立ったのかなという風に感じます。

では、実際皆さんは関わり方がわからなかったり、困ったりしているという、実際の経験はお有りでしょうか？日頃皆さんが感じていることが何なのか、実際にあったことでもいいですし、聞いた話でもいいです。それがどんな場面だったか思い出してみましょう。実際にあった場面で、こんなことがあってというのが頭に浮かぶことがありますか？中には思い出すと辛くなる方、今まさにそういうお子さんを抱えていらっしゃる方も中にはいるかもしれません。今日は、言葉に出してお話をしてもらいたいなという風に思っています。

指したりはしませんが、近くにいらっしゃる方と2人組になっていただいて、今ここで私が話したような、実際にこんなことが思春期の子と関わった時にあったんだよね、とか、知り合いの人から聞いた話だけど、こんなことでちょっと関わりづらみたいなんだよね、みたいな具体的なものがなにか思い浮かんで欲しいなと思うんですが、それを2人組を作ってください、できれば知らない方と話す方が話しやすいと思うんですが、係の方がいらっしゃいますので、ちょっと時間を取りますので、なんとなく2人ずつの組を作ってくださいいいでしょうか？決めた時間をもってお話してほしいなと思いますので、もし3人になってしまったら、後ろに立っている、係になってる方も一緒に参加して、その方とお話ししてもらえるといいなと思います。

2人組になっていただいたと思うので、そのうち髪の短い方の人、手を挙げてください。その方に先に3分間だけ話してもらいます。3分間です。今のように声をかけられたら話の途中でも話をやめて、今度は髪の長い方が自分の話をしてください。聞く方の方は必ず相槌だけで話を聞いてください。それでどうしたんですか？とか振るのではなくて、聞いてください。では、髪の短い方、話し始めてください。どうぞ。

(一方の話 3分間)

それでは時間になりましたので、終わりにしてもう1人の方、話し始めてください。

(他方の話 3分間)

では時間になりますので、お話を終わりにしてください。

ありがとうございます。終わらなかったらどうしようと思いました。3分間ってどうですか？長いですね。意外に相手が聞いてくれると結構なことが話せると思います。

話が変わります。皆さんは中学生の時はどんなお子さんでしたか？年齢によって時代も違いますから、イメージできるものは違うと思いますが、中学校の思い出って言われた時にどんなことが思い出されるでしょう。部活動のことだったり、合唱コンクールのことだったり、修学旅行やクラスのことだったり、どんな友達と仲良くしたでしょう？いろいろな思い出の中で過ごしてきた、あなた自身が居たはずです。これが結構子どもたちに重くのしかかることもあります。親の武勇伝が始まるからです。

本当はここで2分程度、自分がどんな中学生だったかなって、先ほどの方ともう1回話してもらえたらいいなと思ってるんですけど、思い出してお話できますか？時代背景も違うし、保護者の中には私の中学生時期は黒歴史でした、という方もいます。思い出したくない方も多分いるんだと思います。でも、その積み重ねの中に今あなたができているわけです。

ちょっと短く2分だけお話をする時間を取ります。先ほどの方ともう一度組んでいただいて2分だけ中学校の時の一番の思い出でもいいですし、自分はこんな子だったよ、っていうことがお話できるようであればしてみてください。2分なのでさっきよりちょっと短いんです。いいですか？頭の中で思い出してみてください。一番最初にどんな思い出が出てくるでしょう？どんな場面が思い浮かぶでしょう？中学生の時はあったはずですよ。

もう一度組んでいただいて2分ずつ時間を取りますので、先ほどと全く同じようなやり方でしてみてください。ちょっと席を動かされた方は戻ってもらっていいでしょうか？2分間だけです、中学校の思い出話でもいいですし、自分がこんな子だったよっていうのをかいつまんでお話できればしてみてください。ではどうぞ。

(一方の話 2分間)

では時間ですので交代してください。お願いします。

(他方の話 2 分間)

ありがとうございました。ちょっと一人一人に聞きたいなというぐらい楽しそうに盛り上がっていて、どんな思い出が出てきたのかなって思いました。

思春期というのは、二次性徴が始まって体が大きくなる時期だという説明をしました。見た目に大きな変化があるのでとてもわかりやすいです。体の成長が一番進むのは生まれてから3歳頃までの間ですね。子供によっては身長は2倍になり、体重は3〜4倍になります。思春期は、女子は男子よりも1〜2年早く、小学校5〜6年生頃から身長が一番伸びて1年間に10cmくらい大きくなる子がいます。男子はなんと言っても、中学2年生の夏休み明けからの成長はとても目覚ましく、やはり1年間で10cm以上伸びることがほとんどです。この時期になかなか身長が伸びない男子は必死です。

当然、体が大きくなるこの時期は心も大きく成長しています。ただ、残念ながら心の成長は目に見えません。この時期の心の成長は自分探しと言われていています。これはどういうことかと言うと、自分は自分であるという確信を持つことです。それは自分と他人の違いに気がつくことでもあります。全員同じ制服を来ているのが安心な反面、ちょっとだけ他とは違うぞということを誇示したくなるのは自分を主張したくなるからです。つまり、自分は唯一無二の存在で、他の誰とも違うっていうことを確信していく必要があります。

この時期に自分探しをする必要があるのは、いずれ一人の大人となって社会の荒波に出ていかなければならないので、自分で自分を操縦して進んでいくために必要な力をつけるためです。だから外から見て自分がどういう人間であるかが分かっていなければなりません。そのための自分探しを自分でする必要がある時期なんです。

中学校からはほとんどの学校に制服があります。みんな同じ格好をしていて校則もあります。一時期はブラック校則などと騒がれた時期もありましたけれども、今はだいぶ柔らかくなっています。自分探しをしていく中で、明らかに自信が持てるものがあると決められたことを淡々と守り通すということはあまり苦になりません。1番は勉強ができるという自信です。高校選択の必要もあるので順位が知らされます。上位の生徒にとってはそれが励みにな

っていることもあります。私もそうでしたが、下位の生徒は自分は勉強ができないと、ただ自己喪失をする機会でしかありませんでした。わかりやすく他より優れている、自信が持てるものがあると、それを自信にして頑張ります。

例えば部活動で力を発揮して賞状を貰えたりとか、校内の読書感想文の代表に選ばれたり、ということです。ただ、ほとんどの生徒は普通です。取り立てて何かが優れているというわけではない。自分探しは霧の中を歩くようなもので、行き先が見つかりません。そして、言語化するということは得意不得意があります。言葉にするのが不得意な子はとにかく喋らなくなります。そんな時に大切になるのが友達存在です。学校に来て友達と話をする時間は何物にも変えがたい、楽しい時間になるはずです。直接話をすれば相手も同じようなことで悩んでいた、全然違う考えが聞けたりします。人と関わることで初めて自分と人の違いに気づいたり、自分はこれでいいんだと思えたりします。

ところが今は、人と関わる機会が少なすぎます。私は学校の登下校の時間は至福の時間でした。中学校の時の自転車に乗って、自転車ってこんなにゆっくり走れるんだと思うぐらい、ゆっくり漕いで横並びで話をしながら帰った記憶があります。話足りない、分かれ道の交差点で、家と学校を何往復もできるくらいの時間を使ってずっと話し続けたりしました。

ところが今は直接話すより LINE でやり取りしたり、SNS で全く知らない、同じ興味関心を持った人と繋がっているというやり方で関係性を作ります。その方が気が楽で、楽しいと言います。しかし、喋る言葉と文字では伝わり方が違います。顔も見ることがないので、嫌なら関わらなければいいし、オンラインゲームで一緒に組んでやっている時は本当に楽しい、学校に友達はいなくてもいいという生徒もいます。逆に同じ学校に通っているのに、直接会っては全く話をしないのに。家に帰るとゲームで繋がっていて、一緒にチームを組んでゲームで戦っている。

自分探しをする時に大切なのは自分の思いを言葉にうまく乗せられるようになるということです。皆さんにも覚えがあると思いますが、思春期になると家族などとはあまり話さなくなるという感じはありませんでしたか？ 最初に話をしてもらった思春期の関わりづらさの中に「喋らない」とか、「何を考えてるのかわからない」というお話は出なかったでしょうか？ 自分探しは自分との自問自答の時間です。

でも、うまく言葉にできないと自問自答が成り立ちません。社会の仕組み上、直接人と関わる時間が減ったことで言語化が自体が難しくなり、自分自身の中で混乱が生じます。ただでさえ、自分に自信が持てず言語化ができないのに、自分探しができないでいる時に外からごちゃごちゃ声をかけられると「微妙」とか「別に…」とか無視という反応が返ってくることはないでしょうか？言葉の選択がちょっと一昔で申し訳ありませんが、今だとか「うざい」とか「うるせえな」とかでしょうか？

いずれにしてもこのような反応が返ってくるのはまだ言語化ができない状態で自分探し中ということなんです。もちろん子供たち自身はそのことに気がついてはいません。体の変化に伴って自分の中に何が起きているのか分からないんです。昔であれば、バイクに乗って爆音を出しながら友達とつるんで走るというエネルギーの高い子はそういう出し方をしていた時代もありました。今は先ほどお話ししたように、人と関わらない、エネルギーが低い社会の構造が出来上がってしまい、良いことなんです、個を大切にする余り、関わりが薄くなってしまっているという風に学校現場でもずっと感じていました。

これが、関わる時の非常に難しくしている問題であり、でも皆さん自身もその時を過ごしてきていたはずなんです。でも、その微妙な心の変化っていうのは、今、自分が幸せであると、いいように受け止められますし。今、自分があまりいい状況にないと、その頃が暗黒時代という風に振り返ることになります。人間の精神心理発達はそのようにできています。今の自分の幸せ度がとても大切なんです。

最後に時間をいただいて、もう一度来店お話ししてもらおうかなと思ったんですが、時間もありますし、ちょっと心の中の内声で私はこんな話を振ってみたいと思っていました。皆さん自身は今親御さんとどんな関係ですか？私は母が90です。父は60の時なくなっているで母しかいません。ですから、母だけの関係になりますが、介護をしています。もう年齢的にご両親が亡くなられてる方もいらっしゃるかもしれません。自分のご自身の親御さんと今どんな関係性でいらっしゃるでしょう。ちょっと頭の中に思い描いてみてください。

先ほどのように言葉にして話をするのと、頭の中で自問自答して思い浮かぶのではやっている作業が全く違います。言語化するっていうことは本当に大切なことです。お家へ帰って、もう一度親御さんとの関係を思い起こしてほしいなと思います。自分が親との間で未消

化であったことは、自分が子育てをする時にそれを子供に出します。親として。

私たちは1つの家庭の中で生まれ、育てられます。他の家の様子はわからないので、子育てのモデルは自分の親ということになります。そして知っていてほしいことがあります。それは真ん中に書いた気質というものです。私たちは生まれながらに気質というものを持っています。これは一生変わることはありません。脳内にあるセロトニン、ノルアドレナリン、ドーパミンという3つのホルモンの作用で、そのブレンドの高い低いで気質はできあがっているようです。

セロトニンが優位な人はのんびり屋でとてもマイペースだったり、ドーパミンが強い人は行動力が高くでどんどん進んでいく。そんな元々のタイプがあります。しかし、わたしたちの周りにはたくさんの人によっていろんな環境が提供されています。生まれて最初に関わるのは両親です。子供園や幼稚園に入って先生方、周りの友達、そういう人的な環境の中で私たちは大きくなっていきます。周りの環境がいいと気質のいいところが育ちます。どんどんどんどん良いところが伸びていきます。しかし、周りの人的な環境が本人に合わない、本人が持っているマイナスの部分がどんどんどんどん出されます。

だから、クラスの中にいる扱いづらい子が保健室に来た時、私との関係が良ければいろんな話をしてくれます。逆にクラスが居心地が良ければ毎日通ってくるのが楽になります。周りの人的な環境はとても大切です。ですから、私たち大人は子供を見ている、人的な環境の一人であるという自覚を持つ必要があります。そのためには、自分自身が人間として成長していかなければ置いてきぼりを食います。学校で見えても、子供の方が大人だなんて思うご家庭はあります。

こんなこともありました。これは1つの例として聞いてください。小学校に勤めていた時、1時間目が始まったら1年生の弟がお腹が痛いと言って保健室にきました。色々確認しましたが、特に何がという原因になるものは見当たりません。本人にこの後まだ勉強があるけど、どうしたらいいかな？って聞いたら頑張って教室に戻ると言いました。じゃあ頑張れるとこまで頑張ろうねって言って手をつなぎながら教室に送って行きました。

2時間目が終わると小学校は長い休み時間になります。休み時間になったら4年生のお兄

ちゃんが来ました。頭が痛いと言います。いろいろ確認しましたが、風邪をひいているとか、特に体調は悪そうな様子は見受けられませんでした。この後どうしたらいいかな？って聞いたら、できれば家に帰りたいなと言いました。当然何かあったんだろうなということは想像がつくので、ここで初めて1時間目に弟が来たよ、って言ったら多分弟は心配しているんだと思うって言いました。「そっか、じゃあ自分も何か心配してるんだね」と言うと、「昨日の夜、お父さんとお母さんが喧嘩して、家に帰ったらお母さんがいないかもしれない。もうそれが心配で学校にいて勉強どころじゃないです。」と話してくれました。4年生の子に、この後どうしたらいいかな？って言ったら弟と話してみると言って弟の教室に行きました。

当然、その内容は担任の先生にもお伝えしましたが、その後どうしたかという、2人で相談して最後まで頑張って学校にいるっていう選択をしました。相談して、一緒に帰ろうと言ったんだと思います。そうやって小さな心を痛めながら、子供たちも毎日頑張って生活しています。ですから、ものすごく小さなことでも子供は心を痛めます。周りの大人が暴言を吐いたりすることなく、子供の存在を尊重して、みんなが気持ちよく生活していく必要があると思います。

最後に子育ての目標を確認しておきましょう。思春期は第二性徴が始まり、子供が作れる体を手に入れるわけです。男子は精通現象が始まり、それをした衝撃は忘れられないものだと思います。実際にそういう話をしてくれた子もいます。女子は生理が始まり、胸が膨らんできます。10歳頃に生理が始まる思春期早発症と言われる子が最近は増えているのも事実です。いかに胸の膨らみが分からないようにできるか、中学に入るとさらしなどを巻いて登校してくる生徒もいます。そんな体の変化を受け止めながら、彼らは自分探しをしている訳です。

皆さんにも自分の中学生当時を思い出してもらいましたが、そんな変化をどう受け止めていましたか？その時、自分の親はどんな対応していたのでしょうか？子育ての目標、考えたことはありますか？皆さんが産んで育てた子供はあなたの子ですけれども、あなただけの子ではありません。別の人間です。その子がいずれ社会の荒波を乗り越えていけるようにサポートするのが親の役割です。つまり、子育ての目標は子供の自立です。子どもが自分で出来るようにならなければ意味がありません。手を出す方が簡単です。手伝って何でもしてあげるのがとても楽です。

しかし、できるようになるのを見守るのは忍耐が必要です。見守りながら親自身も成長を続けていかないと追い越されてしまいます。社会が豊かになったので、手を出す時間があるように感じています。手を出したくなつたなと感じた時に、これは誰の仕事なんだろう？親自身が自問自答してください。社会に出た時にできることが少ないと困るのはその子です。子供本人が困ることがないように、いろんな経験をさせて、その子が社会に一人で歩いていけるようにする。それが親であり、学校であり、周りの大人たちの役割なのかなという風に感じています。ありがとうございました。これでお話を終わりにします。

司会)

ありがとうございました。子どもを取り巻く一員となる、大人として考えさせられる内容でした。それでは、次にご来場いただきました皆様と市長、そして講演いただきました西島さんにも入っていただいての意見交換になります。少し場面転換がありますのでお待ちいただければと思います。

その間に、意見交換における注意点3つだけお伝えさせていただこうと思っております。まず1つ目はですね、時間が限られております。今日は11時半までです。なので、11時35分ぐらいですかね。そのくらいを目処に終了となりますので、意見を言いたいという方もいらっしゃると思うんですけども、質問をお願いをできたらと思います。さっき2分でお話ししましたので、なんとなくわかると思うんですけど、2分たったらタイマーを鳴らします。夢中で話していると聞こえないかもしれないですが、一応の目安として鳴らさせていただきます。ご了承ください。

また、皆さんの前で意見を言うというのは大変勇気のいることだと思います。なので、意見をしてくださった方には、質問してくださった方にはみんなで拍手をお願いできればなという風に思っております。また、自分と同じ意見の人っていないですよ。違った意見にも認め合っていたきたい。否定するのではなくて、認め合ってお話を聞いていただきたいというこの三点、守っていただきましてご質問いただければなと思います。また時間限られますので、全員の方からお話しを伺うことができないかもしれないので、それだけはご了承ください。では市長、お話を聞いていかがでしたか。

市長)

はい、ありがとうございました。今日はまたいつもと違った感じで参加していただいた方々がみんなお話ができたというのは新しいパターンだなと思っているのと、話すってすごく大事なことだなと、皆さんの話をしている様子を見ながら感じさせてもらいました。いろんな意見があって、話してみると全然違う方の事でも、話して自分を知ることでもあるし、聞いてもらえるということがやっぱり安心につながるんだなというのも大事なので、こういう機会をまた作っていききたいなと思います。

先生のお話を聞いててちょっと何点か感じたのが、言語化するのが難しいというのは子供だけじゃなくて、私たち大人もそうなんじゃないかなと思いながら、やっぱりうまく自分の考えが伝えられないとか、コミュニケーションが難しくて、なかなか社会の中でもうまくいってないことも多いだろうなっていう風にも思いました。

子供たちが自分探しをする思春期ってそういうところなんだけれども、ただ自分のペースで自分探しが今しづらいような社会の構造にもなってるんじゃないか、どうしても学校のカリキュラムがあったり、受験があったりすると自分とは違ったペースで物事が進んでしまいう、そこでどうしてもこう周りと比べてしまうという時間も多いので、非常にそういう中では、思春期の子供たちもいろんな感情を抱えているんだろうなと、で、それを支えていく社会はどうあるべきか、今日、たぶん PTA の方とか自治会の方とかもたくさん参加していただいていると思うんですけども、そういった子供たちと関わる地域の大人とか、社会がどういったことができるのかというのもしっかり考えていかなければという風に思ったところで。ありがとうございます。

いろんな意見があると思うので、皆さんからもし西島さんに聞きたいこととか、前橋でもっとこういうことができたらいんじゃないかなとか。また悩みとかもあれば色々伺いたいと思います。

司会)

はい、ありがとうございます。先ほど私が注意点で言った三点、これを守っていただきま

して、私が僭越ながら指しますので、手を上げていただきたいんですけども、お名前と住んでる町名を教えてくださいなと思うので、是非市長さんでも西島さんでも、お話ししたいことがあったらお願いします。

参加者 1) 千葉県匝瑳市と前橋市の違いについて

小川市長は匝瑳市ご出身だとプロフィールで見たんですけど、匝瑳市と前橋市の違いを感じられているところがあればお聞きしたいです。

市長)

はい、ありがとうございます。私が子供のことを話す時にも私が育った環境と前橋の環境って少し違うなと正直思うところがありまして、私が育ったのは、今は匝瑳市と言うんですけども、元々は野栄町という人口 9000 人くらいの小さい町だったんです。

なので、小学校は 2 つ、中学校は 1 つしかないという所で、子供の数も少ないし、田舎すぎて地域の人たちみんなが隣近所の子供の面倒を見てくれるみたいなのところだったので、周りの大人と関わる機会も多く、あと周りと比べる必要もなかったし、まあ今からもう 30 年とか前の話なので情報も今ほど、インターネットでいろんなところの情報が入るという時代でもなかったんで、すごく伸び伸び過ごせたというのがあるんですけど、前橋はやっぱちょっと都会ですよ。

東京ほどの都会じゃないけれども、ただこれだけ人口がいて、学校も多いし、子供たちも、大規模校から小規模校まで学校のスタイルは色々ですけど、たくさんいると、どうしても周りの目が気になっちゃったりとか、あと環境が整ってますよね。習い事とか塾とかもいっぱいあるので、時代と町の大きさっていうのはそこに住んでる子供たちの周りの環境というのは大分違ってくるなというのは感じてるところになります。ただ、何でもあって適度な都会というのは前橋の良さでもあるので、それが子供にとっていい環境にもっとしていけたらいいなと思っています。ありがとうございます。

司会)

ありがとうございます。次の方よろしく願いいたします。

参加者 2) 中学校における部活動の教育効果について

西島先生、本日はありがとうございました。長年、中学校の方にもお勤めになられていたと思うんですが、中学校での部活動での教育効果、先生がお感じになられていることがあれば教えていただきたいと思います。

私も実は3月31日まで中学校の教員をしてたんですが、先ほど先生のお話にあったように、人との関わる時間、中学校の生徒は学校で授業、給食、休み時間の他に部活動でも関わる時間は多かったと思います。部活動では生き方、組織・集団の中で挨拶・返事・時間を守る、人間関係がいろいろあっても同じ目標に向かって達成するなど、私は教育効果があると思っています。先生のお考えをお聞かせいただければと思います。よろしく願いします。

西島氏)

ありがとうございます。私も学校を離れたので、全く個人的なお話をさせていただければ、部活動を学校でやる意味はとてもあると考えています。実際、学校はブラックだと言われていて、先生方も部活動の負担は重くのしかかっているのは事実です。

ただ、部活動の中で起こる色々な人間関係やいろいろな問題は結局、学校の中で話が出ます。先輩の話後輩の話ですので、もちろん難しい武道であったり、特殊なスポーツを経験のない教員がするのは非常に負担の大きいことでもあると思いますけれども、家庭の状況によって部活動が今見られないという方も中にはいますけど、部活動を見たくないとか、部活動が嫌だって言っている先生方をそんなにたくさん私は知らないです。むしろ先生方は部活動をやりながら子供たちの良さを引き伸ばしながら、それを日頃の学校教育に還元しながら、生徒の良さを活かしているように個人的には感じていました。だから手当をたくさんあげれ

ばいいのによって思っています。

地域移行をしていく中で、段階的にやっていくのしょうから、地域移行自体は市の考えでもあり、教育委員会もその方向で先生方の負担を軽減するという考え方で進めていらっしゃるのだと思いますが、バラバラのところに行ってバラバラな問題が起きた時に、その問題が学校に持ち込まれないのであればいいなという風に、個人的には危惧しています。

自分の近くの家の子も、もうその学校は多分特定の部活動以外は部活をしていないです。だから、中学生が小学生より早く自転車に乗って帰宅して4時ちょっと前ぐらいにはもう家にいるんです。近所の子が毎日なんです。この有り余るエネルギーと人との関わりの時間を、家に帰ってきて一人で過ごしたり、だから逆に塾が社交の場になったりするのかなと、勝手に考えたりすることもあります。

先生方や子供たちにとっていい方法を考えていく中で、どれが本当にいいことなのかは答えは一つではないと思いますけれどもそういった意味で、じゃあ吹奏楽部も移行できるのかな？ってなると難しい問題もあると思うので、逆に先生方の負担の多い少ないの差は大きく出てくるんじゃないかなってことは心配しています。

市長)

補足ですけども、部活動は土日の部活を地域に移行していこうというので国の方針が出ているので、前橋市も土日の部活動をどういう風にやっていこうかというのを教育委員会も検討しているというところになります。

あと、西島先生が仰ってくれたように、地域に土日に移行するということも大きいテーマなんですけど、それ以上に子供が少なくなってきていて、小規模校ではそもそも部活ができない、野球にしてもサッカーにしてもチームが組めないというところがちょっと増えてきているので、そういう子供たちが集団でどうやってスポーツができるかとか、勉強学習が出来るか、社会性を身につけていけるかという話を、これからそういうところは考えていかないといけないなと思っているところになります。

司会)

はい、ありがとうございます。次の方よろしく願いいたします。

参加者 3) **習い事の送迎・移動手段について**

先ほど市長が、都市部だって仰ったんですが、西大室町ってすごく田園豊かなところで育てしやすい地域性もあってという所なんですけど、**抱えてる問題として、習い事の送り迎えとか足がなくて困っています。**

育休中だったので仕事にこれから復帰するんですけど、子供の送り迎えを都市部まで 30 分かけていて、地域差というのをすごく感じているところで、先ほど西島先生も、学校以外の習い事での居場所というのもすごく大切というところで、地域差が生まれないのかなというのが少し不安があるんですけども、何かご意見あればお願いします。

市長)

ありがとうございます。宮城とか、粕川とか、城南の皆さんからは、公共交通もあんまり整っていないくて、子供たちが自分で移動がしづらいというような話を聞くことがあります。

高校生ぐらいになると自転車で駅まで行って、でも大室だと駅までも遠いんですけど、駅まで行って、上毛電鉄に乗って街に来てみたいな風にしてる子もいるんだけど、公共交通のあり方も今まではどちらかというと、高齢者の方の免許返納した後になんかという話で進めてきたんですけど、**子供の意見を聞くと高校生・大学生でも自分たちで移動手段がもっと欲しいという風に言ってくれる方が多いので、それは子供たちの意見も聞きながら、じゃあどういう方法があればどこに行けるのかとか、どこに行きたいのかとか、そういう話を聞きながら交通政策に生かしていけたらなと思っています。**

基本的にはやっぱりバスか、自転車か、電車か、タクシーを使うかみたいなところになってくるので、その辺のこういった交通手段が一番適切なのかというのを考えていきたいなと思ってます。本当に親の負担、送り迎えしなきゃいけないというところが大変だっていうのも、たくさんお声を頂いているので、しっかり検討させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

司会)

はい、ありがとうございました。次の方よろしく願いいたします。

参加者 4) 水道水の PFAS 問題について

昨今言われております、**水道水の PFAS 問題**、岡山県の吉備中央町というところで、人体に有害なフッ素化合物の問題がかなり出ていると思うんですけども、発がん性があるとか、妊婦さんが流産しちゃうとか、日本の水道水は安全だって言われてきたんですけども、そういうのが出ています。

東京ですと、米軍の横田基地ですね、そこに隣接する多摩地区の国分寺市とか、沖縄県の方にも、米軍の基地に隣接する自治体の方の水道水から、PFAS が検出されていると。群馬県とか前橋市としては、前橋の水ってかなり昔からきれいで、ペットボトルで前橋の水という形で、新前橋駅とか前橋駅で売られているぐらい、前橋の水って綺麗なんですけども、**水をどういう風に安全に保っているか、市としてどう管轄されているのかというのを**お聞きしたいと思います。

今難しい問題で国が基準をちゃんと示してくれないので、欧米みたいに厳しい基準を示してくれればいいんですけど。前橋市としてはどういう風な対応をこれからされていくかというのは一番気になっています。市長の考えをお聞かせいただければと思います。

市長)

ありがとうございます。水とか生活のインフラっていうのは生活を支える根本なので、大事なところだという風に思っています。お話に出たフッ素化合物の PFAS については、前橋市は、**しっかり検査をして問題がないということ**で、調査をしっかりさせていただいているので、一部自治体で、水道水が使えないっていうことになってるのも存じ上げているんですけども、**前橋については安心ですよっていうのをお伝えしたい**と思います。

水については性質が、前橋の水は美味しいし、しっかり検査をしているので、もしそういう物質が出た時には、速やかに使わないようにするとか、対応するっていうのは当然していくんですけど、それよりも水道管の維持管理というのが非常に、これからの市としては大きな課題になっていまして、毎日いろんなところで漏水とかが起っています。

で、夜中でも何でも水が漏れてるというところが分かれば、水道局の職員が行って補修をして皆さんが困らないように、水道の管路を維持してるんですけど、もう 40 年ぐらい経っているものとか、どんどんこれから古くなっていくのを直していかなきゃいけないということで、見えないところだし地味なんですけど、結構そこが大変、あとちょっとお金がかかることなので、実は前橋市も水道料金を令和 4 年と令和 7 年に上げますということで、これはもう、その前の時に条例で決めさせていただいているので、皆さんにも水道の使用料を負担していただくことになるんですけども、その負担は皆さんのインフラを保つためだということもお伝えしていきたいなという風に思っています。

そういうことがインフラ関係ではたくさんあるんですけど、なかなか行政から今こういう状況ですよ、とか維持費がこれだけかかりますよ、というのをお伝えする機会が今までなかったと思うんですけども、その辺もしっかりお伝えしていきたいなと思っています。本当に大事な質問ありがとうございました。

司会)

ありがとうございました。他にご質問ある方いらっしゃるでしょうか。 はい、お願いします。

参加者 5) 子どもを見守るポイントについて

西島先生、貴重なお話どうもありがとうございました。今、中学校 2 年生の男の子がいて、子育てに難中してて、今までで一番大変な時期だな、小さいときの方がよっぽど楽しかったんじゃないかなと大変な思いを毎日しています。

先生の話の中で「見守りながら親も成長していく」ということだったんですけども、「見守る」ということがすごく難しく、ただ見てるだけじゃ駄目なんだと思うんですよ。なので、先生の方でポイント、「ここだけは逃してはいけない」、とか「こういう兆候があったら気をつける」とようなアドバイスを頂けたらと思います。

・部活動の地域移行について

あともう一点、市長さんになんですけども、先程の部活の地域移行のお話で、ちょうど移行期に学校の方から話を投げられた状態です。全てを保護者に丸投げされているような感覚があって、保護者もどうしていいか分からない状況です。部活によっては、ある程度外部コーチの方が入ってる部活は出来ているけども、それ以外のところでは一切部活動が出来ないような状態です。

保護者も何も無い状態から規約を作ったり、どう運営していったらいいかというところを凄く悩みながらやっている状況で、負担がかかっています。子どもたちにおいても、前年度の先輩方までは経験された顧問の先生がきちんと見てくださって、やっていたのにも関わらず、自分たちは見てもらえないというか、指導の仕方が違うというところで戸惑っています。

保護者の方も、特別な対応をしなければいけないお子さんがいたりとか、トラブルが起きたときにどうしたらいいか分からないということがあるので、市長として何か考えていることがあればお聞きしたいです。

西島さん)

「見守る」っていうことですが、例えば、今中学2年ですね、中3になると受験がありますよね。そうすると、「誰が受験するの」って思ってしまうような親御さんがいます。部活で言えば、中体連の試合を思い出してもらえばいいんですけど、サッカーの試合を観覧席から大声で応援するのは、サポートしますよね。でも、グラウンドに降りていって、子どものところにきたボールを蹴れないんです、親は。同じ土俵に降りているというのが、「手を出すこと」というイメージでいてください。

「見守る」っていうのは昨日と今日の違いは何かなっていうことをずーっと見てることです。私は生徒が600人居ても、見てました。昨日普通だったのに、今日眉毛が細い子がいるんです。廊下ですれ違いざまに、校則の話になるとまた揉めてしまうんですけど、『あれ、眉毛が細くなったね』という、事実だけを言ってすれ違います。子どもは、『え、見てる』ってなるわけです。そういうことです。

私の子育ての経験で言わせていただければ、実際、子どもが自分は愛されていていいかというのは、三つ子の魂なので、3歳までの親子関係で決まっています。それ以降は言語性や、普段の関わりの中なんです。なので、私はたくさんの中学生から色々なことを教えてもらったので、自分の子どもが中学に上がった時は、絶対自分からは子どもに声をかけないという自分ルールを決めました。

もちろん、『おはよう』や『ご飯出来たよ』などの言葉はかけますが、それ以外の『今日何かあった？』とか『勉強どうだった？』『テスト返ってきた？』『何点だった？』『成績表は？』みたいなことは一切声をかけないと決めました。その代わり毎日の生活はずっと見ていたので、ちょっとぞんざいな事をしていると、チラッと見た時に『何かあった？宿題の字がぐちゃぐちゃだったよ』とか心配だなみたいなことは声をかけましたが、イメージとしてはそんなことかなと思います。これは私のマイルールなので、なにか一つ、これだけはこの子に対してやってみようと思うことを決められれば、気持ちが楽になるのかなと思います。

市長)

部活の関係については、まず保護者の立場で今そういう風に思っているんだ、とお話ししてくれることがとてもありがたいです。その事を学校と子どもたちと、保護者の皆さんでしっかり話が出来る場が必要なのかなと率直に思いました。今日は教育委員会の皆さんも来ているので、そういった保護者の意見もしっかり頭に入れていただけたらなと思います。

指導者については、前橋も学校がいっぱいあるので、全部の中学校の全部の部活に、学校の先生でその指導が出来る人がいるかという、当然いないところもありますし、外部コーチが用意出来るかと言うと出来ないところもあるので、その辺はどこまでいっても、先生が異動しちゃったり、コーチが異動しちゃったりすると、課題としては残るのかなと思います。

今、部活動の地域移行に合わせて、人材バンクについては力を入れていこうと、指導者をなるべく集めて皆さんの指導が出来るように、それをセットにしないとなかなか地域に移行というの出来ないよねということで、そういったところも合わせて進めていきたいと思っています。でもまずは、親にばかり任せられても困るなという思いを、対話ができる場所が作れるといいなと考えています。ありがとうございました。

司会)

そろそろ時間になりますので、最後の一人とさせていただきます。お願いします。

参加者 6) こども施策で一番進めたいことについて

小川市長が子ども政策を最優先にされていらっしゃるということなんですが、その**最優先**にしている中で何を一番やりたいのか、改めてお聞きしたいのと、それに伴って障害があるのかどうか、要は議会で承認が得られなくてちょっと難しいんだよ、とかがあるのかどうか。

ちょうど来年の2月に市議会の選挙があるので、いくら話してもわからないという人も、いるかと思います。市議会の選挙において、そのところが上手く回っていけば、市長のやりたいことがスムーズに回るわけですね。そういった事をどこかの場面でアピールしていただければ投票の基準になるかと思うので、難しいかと思いますが、意見をお聞きたいです。

市長)

ありがとうございます。子ども政策、やらなきゃいけないことがたくさんあると思います。子ども自身に関わることもありますし、子どもを育てやすい環境を作るという意味では、妊産婦さんの支援から、子どもを育てている各家庭における就学前の子とか、小学校、中学校、高校、あるいは大学生に対する支援というのも、今前橋市は大学生に向けての取り組みというのはあまり無いので、そういう若い世代が前橋で育ってよかったな、とか前橋で就職しよう、とか思ってもらえるような幅広くやりたいことはたくさんあって、それをやっていくことが前橋の強みになると思うので、政策的に挙げたらきりが無いんですけど。

ただ、そのことは議会の皆さんも、基本的には同じ考えです。みんな、子ども政策、教育が大事だって思ってます。ただ、予算が限られているので、前橋の場合は大体1600億欠けるくらいの一般会計の予算を組んでいるんですけども、その予算の中で、絶対やらなきゃいけないこととか、社会保障の関係とか、インフラの整備とかがあるので、どれだけ子どもたちのための予算を確保できるかというところで、皆そこがやりたいんだけど、こっちもやらなきゃいけないよねという、どれも大事なので、どうやって優先順位をつけるかというのが難しいというところがあります。

どの議員が反対とか、どの議員が賛成とかではなくて、方針としては、子どもが大事というのは皆分かっている、先程言ったんですけども、市役所だけが決めれば良いとか、議会で決めれば良いのではなくて、市民の皆さんも一緒になってもらって、ここは重点にやる、ここに予算をつけるという風になれば、必然的にここは我慢しなきゃいけないよねとか、ちょっとこれは後回しにしようかなというのを作っていかなくちゃいけないので、その選択をする段階を是非、こういう機会に皆さんにも一緒に考えてもらいたいなと思っています。

司会)

ありがとうございます。手を挙げてくださった方まだいらっしゃったんですけども、お時間の都合で、申し訳ないです。アンケートがありますのでそちらに書いていただければと思います。では最後に市長から、一言お願いします。

市長)

今日はどうもありがとうございました。皆さんに参加していただいて充実感のあるタウンミーティングになったかなと思っています。質問の時間がちょっと短かったので、次回この形式でやるときには時間を長めに設定させていただきたいなと思いますし、また、アンケートの方でもご意見いただければそれを政策の方で活かしていきたいと思っています。

タウンミーティング、年明けにもテーマを決めて進めていきますので、違うテーマでももし興味があればご参加頂けたらと思います。本日はどうもありがとうございました。

司会)

以上を持ちまして、令和6年度第4回タウンミーティングを終了とさせていただきます。本日はご参加いただきまして誠にありがとうございました。

以 上